



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と  
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

## 東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを「職員の仲間」という思いを込めて、  
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第3号

2021年5月7日

編集 緒方 なな  
東浦町教育委員会  
SPコーディネーター

### 北部中学校 <sup>ゆき</sup> 幸SPとの出会い

4月26日、北部中学校で活動している幸SPに会いに行きました。実は、今回初めて会う前に幸SPから「今年の教員採用試験に向けて、どこかで面接練習などしていただけたところはないでしょうか。」と相談をもらっていました。2つ程紹介をしましたが、「さっそく参加してきました！とても勉強になります。」と話してくれました。行動力が、やる気が、熱量がすごいです。先生が自分から行動する、広くアンテナを張っている、その姿を子どもたちは必ず見えています。家族や学校の先生は、子どもにとってとても身近な大人です。直接話したり指導したりしなくても、先生が率先して動いている姿を見たら……、子どもの姿も変わってくるのではないかと思います。それがすでに出来ているなんて、すごいSPさんが北部中学校にもいるのだと思いました。

この日、幸SPは国語の授業に入っていました。授業開始から少し経ったところで、一人の生徒に近づいていき、スッと腰を下ろしました。横に座り、視線を合わせて何かを聞いていました。思春期という難しい年代でも、臆さず丁寧な対応をしていた幸SP。難しい年代だからこそ、こうした丁寧な関わり方が後からじんわり効いてくるのではないかと思います。また、主指導の先生の様子をよく見たり、話を聞きながらメモを取ったりしていました。「授業後など、先生にご都合をうかがって、疑問に思ったことを質問させてもらっています。」と話していました。ここでも幸SPの行動力が光っていました。とても忙しい先生方に、実際の現場の生の声を聞かせてもらえることはとても貴重な機会だと思います。これも、ウィークリーSPだからこそ出来る学びの一つではないでしょうか。

北部中学校の教頭先生から、「幸SPには授業中の支援はもちろん、図書の整理や給食の配膳などもSP活動の一つとして積極的に取り組んでもらっています。授業以外にも教員の仕事はたくさんあるので、そうしたことも勉強になると思います。」と普段の活動の様子をうかがいました。現場の先生方から丁寧に質問に答えてもらえる、学校現場のさまざまな業務に関わらせてもらえる、このどちらもとても貴重な体験です。教員になってから知ると、教員になる前から知っているのとでは、大きな一歩の差があるはずです。

幸SPは、部活動にも参加しているようです。朝から夕方までみっちり活動しています。すごいSPさんです。

今日も素敵なSPさんとの出会いがありました。北部中学校の先生方の「SPさんの将来のために」という温かい想いも聞かせていただけました。北部中学校には他にも活動しているSPさんがいます。きっと素敵なSPさんばかりだと思います。新たな出会いをまた楽しみにしています！

